

臨床実践英語：Practical Clinical English

科目責任者：山内 かつ代（医学教育学）

I. 前 文

本科目は、本学主催の海外研修、海外臨床実習をはじめ、国際的な医療現場での活躍を目指す学生を対象とした、実践的かつ能動的な学修プログラムである。1年次早期から国際的なリテラシー、多様な歴史文化背景、医療プロフェッショナルリズムを理解し、英語で臨床実践を学ぶことで、4、5、6年次における海外研修、海外臨床実習において、現地の指導医、スタッフや患者と円滑にコミュニケーションをとり、能動的に実習に参加できる能力を養う。

II. 受入可能人数

10名程度。1～5年次を対象とし、低学年を優先する。応募者多数の場合は、志望動機、積極性、英語客観試験等を重視し選考する。

III. 担当教員・ファシリテーター

主任教授	山内 かつ代	医学教育学／教育開発・国際交流センター
主任教授	池田 啓	リウマチ・膠原病内科
主任教授	志水 太郎	総合診療科
准教授	能登 慶和	基本医学／語学・人文教育部門
講師	松岡 佐知	医学教育学／教育開発・国際交流センター
講師	クリス・スミス	教育開発・国際交流センター
助教	アビド・ハミド	教育開発・国際交流センター
助教	ピーター・キマニ	教育開発・国際交流センター

医学英語ワーキンググループ教員、看護学部教員、外部講師、海外協定校等の学生・医師、模擬患者 他

IV. 学習内容

本プログラムは、シミュレーション演習やグループワークを中心としたアクティブラーニングで学習する。

1. Identity & Leadership: 自己紹介、大学・地域の理解と紹介、チームワークとフィードバック
2. Clinical Communication: シミュレーターや模擬患者参加による医療面接・身体診察の英語実践
3. Clinical Reasoning: 症例問題を用いた英語による臨床推論ディスカッション
4. Professionalism & Literacy: 国際的な情報リテラシー（SNS・守秘義務）とプロフェッショナルリズム。
5. Presentation Skills: 症例提示（Case Presentation）の基本と実践
6. Career Design: 海外研修準備（Motivation letter作成等）と将来のキャリアパス

※事前事後課題ならびに授業に関する資料は、授業中またはLMSを通じて連絡するので必ず確認すること。

※1テーマにつき1～2コマを予定している。具体的な日程は履修者が決定次第調整する。

V. 学修の到達目標

1. 自分のバックグラウンドや本学の理念を、英語で論理的に説明できる。
2. 国際的な医療・活動チームにおいて、適切なリーダーシップとフィードバックを英語で実践できる。
3. 英語を用いて基本的な医療面接および身体診察を実践できる。
4. 海外の臨床現場におけるプロフェッショナルリズムと情報リテラシーのルールを遵守できる。
5. 海外臨床実習において、症例報告やディスカッションに能動的に参加できる。

VI. 成績評価の方法・基準

本科目はプロフェッショナルリズムの修得を重視し、以下のとおり評価する。

- ・プロフェッショナルリズムおよび演習への能動的関与（40%）：無断遅刻，無断欠席は厳禁
- ・各回の事前・事後課題の提出（30%）：期限内の提出と内容の質を評価する
- ・最終総括評価（30%）：模擬患者を用いた臨床技能試験（English OSCE），症例プレゼンテーション等

※医師としての基本資質である「時間遵守」および「責任感ある行動」を厳格に評価する。遅刻や連絡なき欠席は、臨床現場における信頼性の欠如と見なし、評価に大きく影響する。また、シミュレーションを含む演習における他者へのフィードバックやチームへの貢献度も評価の対象となる。なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合は、成績評価の対象としない。

※本科目の評価は海外研修，海外臨床実習選考の基礎資料となる。

VII. 使用する教材・資料など

- ・LMS: Learning Management System（Moodle等）上に提示する講義動画，資料，文献
- ・授業にはノートPCまたはタブレット端末を持参すること（スマートフォン不可）

※演習の特性上，スマートフォンによる参加は認められない。

VIII. 質問への対応方法

科目責任者：山内かづ代（k-yamauchi@dokkyomed.ac.jp）または授業担当者が対応する。事前にアポイントメントを取ることを。

IX. 求められる事前学習，事後学習及びそれに必要な時間

事前学習（30分）：LMSにて予習用の資料を配信するので，必ず予習すること

事後学習（30分）：各回で事後の振り返り課題を出すので，提出期限までに実施すること

X. コアカリ記号・番号

PR-01-01-01, PR-01-01-02, PR-01-02-02, PR-02-01-01, PR-02-03-01, PR-02-03-02, PR-03-01-01, PR-04-01-02, GE-01-01-01, GE-01-02-01, GE-01-03-01, GE-01-05-01, GE-02-01-02, GE-04-02-02, GE-04-02-03, LL-01-01-01, LL-01-01-02, LL-01-02-01, LL-02-01-01, LL-02-01-02, RE-01-01-02, IT-01-01-01, IT-01-02-01, IT-01-02-02, IT-02-01-01, IT-03-01-02, IT-03-02-01, CS-01-01-01, CS-01-02-01, CS-02-01-01, CS-02-02-01, CS-02-02-02, CS-03-03-01, CM-01-01-01, CM-01-01-02, CM-01-01-05, CM-01-02-01, CM-01-02-02, CM-02-01-01, CM-02-01-02, CM-03-01-02, IP-01-01-01, SO-05-02-01, SO-05-02-02

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

各回の事後学習課題（ポートフォリオ等）に対しては，LMS（Moodle等）を通じて個別にアドバイスし，次回の演習に向けた改善を促す。演習では，講師，模擬患者，学生同士の相互評価（ピア・レビュー）を取り入れ，リアルタイムに口頭やテキストでフィードバックを行う。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	◎
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	